

多根第二病院

2023 年度年報

目 次

病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
診療部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
看護部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・・・・・	5
放射線科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
医療生活相談室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
栄養科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
薬 局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
事務部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
資格一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
学会発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14

〒550-0021 大阪市港区築港 3-4-25

TEL : 06-6559-1212 (代表) FAX : 06-6559-1213

交 通 :

電 車 大阪メトロ中央線大阪港駅下車徒歩 3 分

大阪シティバス

大阪駅前より (88) 天保山行 築港 1 丁目下車徒歩 3 分

なんば駅前より (60) 天保山行 築港 1 丁目下車徒歩 3 分



(写真の 3 階～6 階が多根第二病院病棟)

【病院概要】

院 長	安部 嘉男
開設日	1986 年 (昭和 61 年) 8 月
病床数	216 床
標榜科目	内科／脳神経内科／リウマチ科／リハビリテーション科／放射線科
土地・建物 (㎡)	敷地面積 3,568.04 ㎡ 延床面積 専用部 5,743.01 ㎡ + 共用部 2,016.68 ㎡
基準関係	3 階・4 階・5 階・6 階 (各 54 床×4 病棟) 療養病棟入院基本料 1 / 診療録管理体制加算 2 / 療養病棟療養環境加算 1 / 医療安全対策加算 2 / データ提出加算 / 認知症ケア加算 / 薬剤管理指導料 / 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) / 運動器リハビリテーション料 (Ⅱ) / C T 撮影及び M R I 撮影

(2024 年 3 月現在)

◆診療部

【部署概要】

多根第二病院および多根介護老人保健施設てんぼーざんは、主に多根総合病院で急性期治療を、多根脳神経リハビリテーション病院で回復期治療を終えた方で、なお医療必要度および介護ニーズが高く長期にわたる療養が必要な方に安心・安全な医療や医療的ケアを提供し、医師による医学的管理の下、看護師・介護士・リハビリ療法士・栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカー等、多職種協同による専門的な管理を通じて、自立支援・社会復帰を強力に推し進めるための施設です。いずれも 24 時間の看取り・ターミナルケアにも対応しています。

＜第二病院 入院病棟＞

入院設備は医療療養型病棟（医療保険適応）が 4 病棟（3 階、4 階、5 階、6 階）計 216 床あります。長期にわたる療養が必要な方へ、継続的医療ならびに医療的ケアを提供しています。また診療報酬はすべて包括医療となっています。

＜介護老人保健施設てんぼーざん 入所療養棟＞

入所設備は 7 階と 8 階にそれぞれ 50 床ずつ計 100 床あり、特に 8 階は認知症専門病棟となっています。介護を必とする高齢者（要介護 1～5）の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、作業療法士や理学療法士等によるリハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供しています。

＜第二病院 外来診療＞

内科、脳神経内科、リウマチ科の外来診療を行っています。

＜介護老人保健施設てんぼーざん 通所リハビリテーション＞

要介護ならびに要支援患者様を対象に、機能回復に重点を置いた医学的管理下でのデイケアすなわちリハビリテーションサービスを中心に提供しています。

【診療・部署体制】

多根第二病院・多根介護老人保健施設てんぼーざんでは、2022 年度 5 名体制ではじまり、2023 年 4 月に医師 1 名の参入があり実質 6 名体制となっております。新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生という惨禍にも見舞われる中、各部門の並大抵ではない献身的努力と多根総合病院医局の協力を得て、診療継続ができました。多根介護老人保健施設てんぼーざんには実質 1 名の医師が配置されています。両施設協力体制のもと、患者様のニーズに呼応した医療提供体制を維持しています。

【特色・トピックス】

医師や看護師等の医療スタッフはきわめて限られていますが、総合病院、脳神経リハビリテーション病院の後方支援施設としての役割を果たすべく、脳神経疾患はもとより、高齢者を悩ます多傷病のすべてに急性期から慢性期まで幅広く対応して ADL・QOL の向上を目指しています。

また、総合病院及び脳神経リハビリテーション病院から患者受入れを、さらに円滑に速やかにするため、対象患者の予備回診、総合病院入院早期からのカルテ情報共有、現在の主治医・看護部・MSW との事前話し合い、情報交換などに積極的に取り組んできました。2017 年 6 月からは SSI 社の電子カルテが導入されています。また、2020 年秋より呼吸・循環動態の不安定な患者様を対象とした、常時監視モニタリングシステム（SAT-MeSSAGE）を導入。2021 年度には各病棟、末梢端末 5 機の拡充導入を行い、患者様の安全管理の向上に努めています。

◆看護部

【部署概要】

当院は多根総合病院の後方支援病院として、急性期で治療を終えた後、長期にわたり療養を必要とする患者を受け入れている「医療療養病床」である。主な医療的ケアとしては、人口呼吸器装着、気管切開、中心静脈栄養（TPN）及び末梢点滴、経管栄養（胃管カテーテル及びPEG）、膀胱留置カテーテル挿入、褥瘡等の創処置が挙げられる。医療区分：区分2・3の割合が96.5%、区分3の割合は49.3%と、依然として、医療的ケアの必要な患者が多く入院している。今年度の取り組みとして、5月より認知症ケア加算1を取得し、対象患者は平均110名/月。摂食嚥下機能療法の介入件数は延べ31名、そのうち経口摂取へ移行した患者は13名。

退院支援については、自宅退院（在宅相当の施設を含む）26件、老健入所10件という結果であった。

【診療・部署体制】

看護単位：4病棟（1病棟54床、3階～6階：計216床）

人員配置：療養病棟基本料Ⅰ 20：1 （医療法4：1）

看護部長：1名 副看護部長：1名

【各病棟】看護師長：1名 看護主任：2名 ナースエイド主任又は副主任：1名

看護要員：看護師・准看護師：55名 ナースエイド（看護補助者）：44名 クラーク：2名

看護方式：固定チームナーシング

勤務体制：2交替制

【特色・トピックス】

1. 大阪府看護協会主催認定看護管理者教育課程ファーストレベル：1名
2. 大阪府看護協会主催医療安全管理者養成研修：2名
3. 社会医療法人きつこう会看護部院内認定コース
看護管理者マネジメント：1名
摂食・嚥下障害看護：2名
認知症看護：1名
4. ナースエイドTQM発表会（4題）
5. 臨地実習の受け入れ：看護大学3校
6. 特定行為の施設実習受け入れ：1名
7. NP（診療看護師）の施設実習受け入れ：1名
8. ふれあい看護体験受け入れ：4名

【診療・部署実績】

1. 看護部目標に対する評価：中間評価（10月）、最終評価（3月）
2. 看護部委員会の成果発表（3月）
3. 看護部委員会主催の勉強会（対象：看護師・准看護師・ナースエイド）
4. 看護部管理基準、病棟管理基準、病棟管理手順の見直し
5. 看護手順・看護補助手順の見直しと新規作成
6. 認知症ケア加算1の取得
7. 摂食機能療法の開始
8. 業務改善委員会の発足と運営
9. チーム医療推進委員会の発足と運営

◆リハビリテーション科

【部署概要】

療養病棟は急性期医療終了後に病状は比較的安定しているが、引き続き医学的管理下で生活介助やリハビリによる機能的訓練を継続的に行い、在宅復帰や介護施設への退院を支援する病棟である。

療養病棟の特性上、長期臥床となる患者が多くいるが積極的に離床を促しながら、可能であれば他職種で連携して在宅や介護施設への退院を支援している。また、チームアプローチにおけるリハビリ専門職として、ベッドや車椅子のポジショニング設定や起居動作の介助方法について助言、指導を行っている。

【診 療・部署体制】

- ・医療療養病棟（216床）医療保険適用
施設基準 脳血管リハビリⅡ、運動器リハビリⅡ、廃用リハビリⅡ
- ・理学療法士3名、作業療法士1名が月～金の各曜日対応している。

【特色・トピックス】

患者のリハビリ実施業務以外に以下の取り組みを行っている。

- ・多職種（医師、看護師）にてリハビリカンファレンスを開催し、情報の共有化を促進する。
- ・医療安全研修（年2回）や看護部勉強会での講演を行う。

【診 療・部署実績】

2023年度リハビリ実施単位数

単位：単位[※]

	4月 [※]	5月 [※]	6月 [※]	7月 [※]	8月 [※]	9月 [※]	10月 [※]	11月 [※]	12月 [※]	1月 [※]	2月 [※]	3月 [※]
脳血管リハ [※]	285 [※]	296 [※]	336 [※]	296 [※]	320 [※]	385 [※]	458 [※]	435 [※]	373 [※]	332 [※]	408 [※]	444 [※]
運動器リハ [※]	106 [※]	141 [※]	112 [※]	118 [※]	103 [※]	151 [※]	201 [※]	105 [※]	88 [※]	99 [※]	73 [※]	100 [※]
廃用リハ [※]	453 [※]	442 [※]	493 [※]	410 [※]	411 [※]	418 [※]	572 [※]	622 [※]	591 [※]	600 [※]	588 [※]	577 [※]
合計 [※]	844 [※]	879 [※]	941 [※]	824 [※]	834 [※]	954 [※]	1231 [※]	1162 [※]	1052 [※]	1031 [※]	1069 [※]	1121 [※]

◆放射線科

【部署概要】

【スタッフ紹介】

松田 泰宏：診療放射線技師

【診療・部署体制】

【撮影機器について】

一般撮影装置 1 台、移動用 X 線撮影装置（ポータブル）1 台、全身用 MDCT1 台

【特色・トピックス】

当施設では高齢の利用者が多いため、ポータブル撮影の割合が非常に高くなっています。なお、X 線撮影室で胸部写真を撮る際には高齢の利用者が多いのを考慮して、利用時に負担がかからないよう、座ったままで撮影できる車椅子を準備しています。

CT 検査についても、楽に検査が受けられるよう、息止めをせず、手を頭の上に挙げずに身体の横におろしたままで胸腹部 CT 検査が出来るプログラムもあります。

ポータブル撮影時、カセットに背骨が当たって痛くない様に、間にバスタオルなどを敷いて苦痛をできるだけ少なくする様努力しています。

硬縮の強い患者様の撮影では抑制帯などは使用せず、技師自らの手で引っ張り、撮影目的部位が観察しやすい画像を提供する様努力しています。

2017 年度 6 月より電子カルテがスタートしましたが、機器との接続も完了し、患者情報を直接電子カルテからいただいていますので患者情報の入力間違いはありません。

【診療・部署実績】

	外来			3階				4階				5階			
	一般	CT	合計	一般	P	CT	合計	一般	P	CT	合計	一般	P	CT	合計
2023年4月	0	0	0	3	65	12	80	1	54	15	70	1	44	14	59
2023年5月	0	0	0	2	79	11	92	4	57	17	78	1	65	13	79
2023年6月	0	0	0	0	75	18	93	1	89	19	109	1	56	15	72
2023年7月	0	0	0	1	73	24	98	0	77	20	97	0	55	9	64
2023年8月	0	0	0	0	75	14	89	6	74	24	104	2	76	15	93
2023年9月	0	1	1	2	72	14	88	1	80	7	88	4	66	9	79
2023年10月	0	0	0	0	74	10	84	1	85	13	99	0	57	15	72
2023年11月	0	1	1	3	71	12	86	0	76	15	91	0	73	15	88
2023年12月	0	0	0	0	96	15	111	0	81	13	94	0	88	4	92
2024年1月	0	0	0	0	99	7	106	0	72	9	81	0	75	9	84
2024年2月	0	0	0	1	62	15	78	2	60	8	70	0	72	9	81
2024年3月	0	0	0	0	84	18	102	0	59	5	64	0	82	11	93
合計	0	2	2	12	925	170	1107	16	864	165	1045	9	809	138	956
月平均	0.0	0.2	0.2	1.0	77.1	14.2	92.3	1.3	72.0	13.8	87.1	0.8	67.4	11.5	79.7

活動報告（業績）

2023 年度

	6階				7階				8階				合計			
	一般	P	CT	合計	一般	P	CT	合計	一般	P	CT	合計	一般	P	CT	合計
2023年4月	1	55	10	66	0	7	0	7	0	1	0	1	6	226	51	283
2023年5月	1	69	11	81	0	7	0	7	0	4	0	4	8	281	52	341
2023年6月	1	85	17	103	1	13	0	14	0	6	3	9	4	324	72	400
2023年7月	2	67	17	86	1	7	2	10	1	3	1	5	5	282	73	360
2023年8月	6	72	18	96	0	8	0	8	0	6	1	7	14	311	72	397
2023年9月	2	73	15	90	0	9	0	9	2	5	1	8	11	305	47	363
2023年10月	0	93	14	107	0	9	0	9	0	4	0	4	1	322	52	375
2023年11月	0	32	12	44	1	5	0	6	0	3	1	4	4	260	56	320
2023年12月	0	94	11	105	0	10	0	10	0	3	1	4	0	372	44	416
2024年1月	0	89	6	95	1	9	0	10	0	5	3	8	1	349	34	384
2024年2月	2	66	6	74	3	6	1	10	1	5	2	8	9	271	41	321
2024年3月	0	75	9	84	1	4	1	6	0	3	1	4	1	307	45	353
合計	15	870	146	1031	8	94	4	106	4	48	14	66	64	3610	639	4313
月平均	1.3	72.5	12.2	85.9	0.7	7.8	0.3	8.8	0.3	4.0	1.2	5.5	5.3	300.8	53.3	359.4

【次年度方針・将来展望・目 的・目 標】

CT の予約の振り分けなどを適切に行い、件数を増やせていけたらと考えます。

CT の予約時間を決めずに各病棟の都合のよい時間に電話を頂いて撮影する様にしていきます。

一般撮影装置や CR 装置はメンテナンス契約を行っていませんので、なるべく故障しないように自分で出来る日々のメンテナンスを確実に行っていきます。

CT の時の搬送なども積極的に手伝っています。搬送時のインシデント発生には特に気をつけて、これからも続けていきたいと考えています。

◆医療生活相談室

【部署概要】

第二病院、てんぼーざんにおける相談、利用調整を行っている。相談受付時には第二病院・てんぼーざんどちらの対象か明確ではないことや、利用調整の途中で対象施設が変更となる場合もあるため、業務内容については第二病院・てんぼーざん双方を含んだ内容となる。

主な業務内容は、入院・入所・ショートステイの利用調整（相談受付からサービス利用に至るまでの調整過程全てを含む）、退院・退所調整、帰院・帰所調整等である。

【診療・部署体制】

てんぼーざんの業務と兼務して4名体制で行っている。

【特色・トピックス】

多根総合病院より入院相談があれば最短の日程で受入れ実施している。在宅調整目的、医療区分なし、介護保険なし、要支援のため老健入所不可、ワンクッション目的、人工呼吸器装着中の患者の入院相談が入る。

今年度は、総合病院からの入院件数が178件（2021年度126件、2022年度195件）と減少、他院・他施設からの入院件数は78件（2021年17件、2022年度48件）で増加傾向。

転帰として、自宅14件（2021年度15件、2022年度30件）、他院・他施設への退院21件（2021年度7件、2022年度34件）。年間死亡者数は過去最高であった。

新規入院者数も過去最高であり、加えて総合病院からの帰院調整を行っているため、業務量が著しく増加している。

【診療・部署実績】

2023年度実績

入院相談：492件（てんぼーざん含む）

新規入院：270人

退院：272人（死亡200人、自宅14人）

◆栄養科

【部署概要】

〔栄養管理業務〕

入院患者一人一人に対し栄養スクリーニング・アセスメントを実施、栄養管理計画書（栄養補給方法、栄養量、嚥下機能に合わせた食形態等）を作成し、定期的にモニタリングを行っています。病棟訪問では、個々の患者に合わせた食事栄養相談を行っています。また、NST（栄養サポートチーム）により、医師・看護師・薬剤師・その他の多職種と連携し栄養障害の状態にある又は栄養障害を生じるリスクの高い新規入院患者に対し、患者の生活の質の向上、原疾患の改善促進及び感染症等の合併予防等を目的とし介入しています。

〔給食管理業務〕

老健てんぼーざんと併設のため同一厨房にて全ての食事を調理しています。温冷配膳車を使用し、適切な温度で食事を提供しています。旬の食材を使用し季節を感じられる献立を心がけ、月に数回行事食を提供し食事を楽しんでいたできるよう努めています。

【診療・部署体制】

〔栄養管理業務・給食管理業務〕

管理栄養士 2 名

〔給食管理業務〕

委託給食（日清医療食品 KK） スタッフ 管理栄養士 2 名、調理師 5 名、調理員 11 名

【特色・トピックス】

1. 栄養管理計画書の作成
2. 多職種による経口移行・経口維持の取り組み、ミールラウンドおよびカンファレンスの実施
3. 栄養指導、栄養相談の実施
4. 栄養管理委員会の開催
5. 行事食、イベント食、郷土料理の実施
6. 感染管理委員会、ICT 委員会、褥瘡対策委員会、MRM 委員会、防災検討委員会、摂食嚥下支援委員会、ACP 推進委員会、チーム医療推進委員会、認知症ケアチーム委員会への参加
7. 港区食品衛生協会栄養士部会への参加、港区健康フェスタへの参加
8. 濃厚流動食、栄養補助食品の見直し及び導入
9. 栄養科だよりの作成、掲示（各フロア）
10. NST（栄養サポートチーム）の介入

【診療・部署実績】

食種別食事提供数 2023年度(単位:食)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
常食	646	497	453	463	444	525	593	429	421	388	348	421
きざみ食	1,355	1,200	1,062	1,293	1,438	1,493	1,597	1,562	1,295	1,080	752	727
ペースト食	1,119	1,016	842	923	1,208	1,051	1,078	1,104	1,107	1,359	947	932
嚥下食	1,060	1,270	875	674	966	842	723	794	944	1,065	1,106	1,505
軟菜食	529	441	561	527	280	426	375	489	690	640	554	609
糖尿食	403	473	483	403	514	526	530	596	701	647	539	561
心臓食	197	186	180	219	128	180	247	270	279	391	343	241
心糖食	0	0	0	0	0	0	23	90	93	93	87	93
腎臓食	270	279	270	279	282	270	279	321	356	372	354	425
肝臓食	32	0	14	99	8	90	93	88	86	83	87	182
潰瘍食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	82	82
低残渣食	0	75	120	141	186	141	0	0	0	0	0	0
濃厚流動食	9,073	9,552	10,102	10,391	9,689	9,185	9,040	8,681	8,720	8,428	7,463	7,962
計	14,684	14,989	14,962	15,412	15,143	14,729	14,578	14,424	14,692	14,554	12,662	13,740

行事食・イベント食 2023年度

4月	お花見会	お花見弁当
	郷土料理	スタミナラーメン(茨城県)
	季節のデザート	桜餅風デザート
5月	八十八夜	お茶プリン
	こどもの日	こいのぼりゼリー
	郷土料理	鳴門うどん(徳島県)
	郷土料理	かつおのたたき(高知県)
6月	郷土料理	サンマーメン(神奈川県)
	季節のデザート	あじさいゼリー
	季節のデザート	さくらんぼゼリー
7月	郷土料理	ゴーヤチャンプル(沖縄県)
	七夕	七夕そうめん、お星さまゼリー
	土用の丑の日	鰻の蒲焼き
8月	郷土料理	太平燕(熊本県)
	ワンプレートランチ	ワンプレートランチ
	お盆献立	茶そば御膳
9月	郷土料理	芋煮(山形県)
	敬老の日	赤飯御膳
	十五夜	月見そば、月見饅頭
10月	郷土料理	がめ煮(福岡県)
	ハロウィン	かぼちゃプリン
11月	郷土料理	味噌カツ(愛知県)
	すこやか祭り	たこやき
12月	郷土料理	治部煮(石川県)
	お寿司フェア	にぎり寿司
	クリスマスイブ	チーズインハンバーグ
	クリスマス	オムライス、唐揚げ、ケーキ
	大晦日	年越しそば
1月	お正月	おせち料理
	郷土料理	とり天(大分県)
	郷土料理	山賊焼き(山口県)
2月	節分	助六寿司、わたようかん
	バレンタインデー	チョコレートプリン
3月	ひなまつり	ひなちらし寿司、三色ケーキ
	お寿司フェア	にぎり寿司
	郷土料理	チキン南蛮(宮崎県)

月1回、お誕生日メニューとして散らし寿司を提供。

◆薬 局

【部署概要】

調剤業務、注射業務、医薬品情報管理業務、薬剤管理指導業務、医薬品管理業務を中心に医薬品の安全管理と適正使用を促進する業務を行っている。

〔方針・目標〕

1. 医薬品情報を加味した安全かつ安定な医薬品供給に努める。
2. 医師の処方に基づき、患者様の薬物療法に貢献する。
3. 他部門との連携を進めながら、業務の効率化を図る。
4. 診療報酬関連の業務の実施と適正な算定について努力する。
5. 医薬品費の抑制として、後発医薬品の採用促進に努める。

【診 療・部署体制】

〔スタッフ〕

薬剤師 3 名（1 名は「多根老人保健施設 てんぽーざん」兼務）

事務 1 名

〔調剤業務〕

入院処方箋枚数 月平均 2671.6 枚

〔注射業務〕

入院注射箋枚数 月平均 1895.7 枚

〔医薬品情報管理業務〕

医薬品情報の収集・管理、関連部署への薬剤情報の提供、副作用情報・緊急安全性情報の提供、主な採用医薬品の錠剤識別表の配布、薬剤部ニュース発刊、院内医薬品集発刊

〔薬剤管理指導業務〕

医師の薬剤管理指導指示書に基づき薬剤管理指導を行い、患者様が安心して安全に納得して薬物療法を受けられるように心がけている。

全ての入院患者様の持参薬を鑑別報告している。

薬剤管理指導対象外の患者様についても、退院時「お薬説明書」を作成し、交付している。

指導患者数 月平均 21.7 名 薬剤管理指導料請求件数 月平均 73.6 件

〔医薬品管理業務〕

在庫数、保管状況、使用期限の管理を行っている。

病棟配置薬に関しても、月 1 回確認している。

【特 色・トピックス】

- ・2010 年 1 月よりすべての長期入所者様に一包化調剤を行っている。
- ・2007 年 10 月より、輸液の処方（単品を含む）について、注射薬ラベルを薬局で作成し、注射薬の交付時に注射薬とともに交付している。
- ・2011 年 8 月より、アンプルなどの単剤についても交付している。
- ・2012 年 4 月より、医療生活相談室からの要望により老健入所判定会の資料として処方薬を鑑別し、当院採用の代替医薬品と薬剤費の概算を報告している。
- ・2013 年 3 月より、定期処方の開始曜日を全病棟「木曜日」に統一した。
- ・2014 年 6 月より、注射薬の交付について処方ごとにアンプル・バイアルをセットしている。
- ・2015 年 4 月より、従来 栄養科が注入食に添付していた補正用の食塩を看護部門からの要望を受けて薬局から定期処方と共に交付している。
- ・2017 年 6 月より、電子カルテの可動により薬剤業務がシステム化された。（医薬品在庫管理を除く）
- ・2018 年 12 月より、毒薬及び覚せい剤原料については、病棟・薬局双方で確認（押印）して交付している。
- ・2019 年 6 月、災害時の備蓄として、医薬品を 5F,6F 病棟に分割して設置した。

- ・2021年 コロナ禍において、コロナウイルス RNA ワクチンの希釈・分注を行っている。
- ・2022年 条件付き BOX を作成し、病棟での頓服薬の在庫の効率化を図った。
- ・2023年 より安全に注射投薬を行えるように注射監査システム「F-AUDIT」を導入した。

【診療・部署実績】

〔後発医薬品採用率〕

後発医薬品のある先発医薬品に対する後発医薬品採用率（品目数）：83.3%

〔処方箋枚数・調剤件数〕

	処方箋		注射箋枚数	
	枚数	件数	入院	外来
2023年4月	2,400	4,454	1,671	0
5月	2,435	4,466	1,807	0
6月	2,784	5,347	1,711	0
7月	2,620	4,853	1,730	0
8月	2,766	5,596	1,955	0
9月	2,647	4,937	1,856	0
10月	2,700	4,853	1,874	0
11月	2,983	5,739	1,769	0
12月	2,790	5,124	1,859	0
2024年1月	2,622	4,944	2,173	0
2月	2,862	5,614	2,409	0
3月	2,450	4,566	1,934	0
合計	32,059	60,493	22,748	0
月平均	2,671.6	5,041.1	1,895.7	0.0

〔薬剤管理指導件数〕

	指導患者数	指導件数	請求件数
2022年4月	15	54	54
5月	22	63	63
6月	26	87	87
7月	18	76	76
8月	21	72	72
9月	23	80	80
10月	27	83	83
11月	23	84	84
12月	22	66	66
2023年1月	18	69	69
2月	21	67	67
3月	24	82	82
合計	260	883	883
月平均	21.7	73.6	73.6

◆事務部

【部署概要】

事務部は、多根介護老人保健施設てんぽーざんの管理部業務内容を兼任して事務部門及び施設管理を担当しています。内容として、窓口業務及び保険請求業務、管理統計資料作成、経営指標資料作成等以外にも、患者や利用者の搬送および送迎業務、施設管理も行っています。

病院の入院病棟施設基準として、移転開設した 2000 年から運用していた介護保険適用下の介護療養病床は昨年 9 月末で終了したため、216 床全てが医療保険適用下の医療療養病床となっています。

大都市の中にある慢性期療養施設として、高齢者の方や長期療養を必要とする方に対し、少しでも安心して療養を受けていただけるよう心がけています。

【診 療・部署体制】

多根第二病院と多根介護老人保健施設てんぽーざんの兼務として、部長 1 名、課長 1 名、係長 1 名、部員 5 名の 8 名体制にて行っています。

【特 色・トピックス】

多根第二病院は慢性期医療を提供している病院です。事務部は其中で、老健業務を兼務しながら受付から保険請求、そして施設管理などその範囲は広く行っています。入院患者のほとんどが高齢者で、そして長期となっている中、他の職種と協力してより良いサービスを提供できるように心がけています。また患者本人とのコミュニケーションが難しい分を家族といかに取るかにも気をつけています。

【診 療・部署実績】

			3 階	4 階	5 階	6 階	計	
長期入所	入院者数（新規入院者）	名	100	69	71	76	316	
	退院者数	名	104	69	63	81	317	
	在院者延日数（延人数）	日	17, 324	17, 837	17, 120	17, 713	69, 994	
	平均在院日数	日	169. 8	258. 5	255. 5	225. 6	221. 2	
病床利用率			87. 9%	90. 5%	86. 9%	89. 9%	88. 8%	
1 日当り			47. 5	48. 9	46. 9	48. 5	191. 8	
入 院	入院経路	総合病院	名	79	55	62	67	263
		他院	名	20	12	7	9	48
		併設老健	名	1	1	1	0	3
		他施設	名	0	0	0	0	0
		外来	名	0	0	0	0	0
		自宅	名	0	1	1	0	2
退 院	退院経路	総合病院	名	27	15	24	14	80
		他院	名	4	0	0	2	6
		併設老健	名	3	1	1	2	7
		他施設	名	15	10	8	9	42
		死亡	名	53	38	27	46	164
		自宅	名	2	5	3	8	18

【資格一覧】

施 設：	多根第二病院	部 署：	看護部
人 数	資 格		
1 名	認定看護管理者		
1 名	認知症看護認定看護師		
2 名	特定行為看護師		
3 名	介護支援専門員		
施 設：	多根第二病院	部 署：	薬局
人 数	資 格		
2 名	認定実務実習指導薬剤師		
施 設：	多根第二病院	部 署：	栄養科
人 数	資 格		
1 名	大阪糖尿病療養指導士		
1 名	フードスペシャリスト		

【学会発表】

【学会発表】

施設： 多根第二病院

部署： 看護部

会名称	第 22 回 大阪病院学会		
発表テーマ	医療安全風土尺度を用いた A 病棟の安全風土に対する意識調査		
日時	2023 年 10 月 8 日	発表者	南 麻由美
場所	大阪府立国際会議場		
会名称	第 31 回 日本慢性期医療学会		
発表テーマ	療養型病院における特定行為研修を終了した看護師の活動実績と今後の課題		
日時	2023 年 10 月 19 日	発表者	岡本 明奈
場所	大阪府立国際会議場		
会名称	第 31 回 日本慢性期医療学会		
発表テーマ	多職種連携で胃瘻から経口摂取能力を回復した 1 例		
日時	2023 年 10 月 19 日	発表者	大西 智恵
場所	大阪府立国際会議場		

【執筆・論文】

施設： 多根第二病院

部署： 看護部

掲載誌名	日本慢性期医療協会機関誌 JMC		
執筆・論文 タイトル	当院における摂食嚥下機能回復に必要な体制作り		
著者	大西 智恵	掲載号 掲載年 等	第 152 号 2024 年 4 月刊行

社会医療法人きつこう会